



花美術館に掲載



このほど発行された美術誌『花美術館Vol.18』に長岡和慶師の作品が取り上げられている。同誌は隔月で発行されているもので、様々な角度から日本の近代美術等を紹介している。和慶師の作品は「現代彫刻の基軸」をテーマとする項目に掲載されており、長岡熙山師の作品も紹介されている。

購入は全国の書店にて
定価1,200円

負けん気も強くなりまし
たよ。
——当時のことで今でも
忘れられないエピソード
などありますか？
長岡 今でも覚えている
のは、数体並んだ舟形地
蔵を見ながら、兄が「こ
れは良い、これは駄目」
と言っている。でも私に
はその違いが全く理解で
きなかった。それで、と
にかくいろいろな作品を
目に焼き付け、その違い
を考えながら見るよう
にしました。

な仕上げで、手や衣の曲
線美、身体の輪郭など、
どこから見ても美しく絶
妙な作りだった。その
作品を繰り返し見ている
うちに、自然と目が養わ
れた気がします。
最初はわからなかった
感覚も徐々に体に染み込
み、そのうちに良否がわ
かるようになってきた。
若い人にアドバイスする
としたら、まずは本物
良いものを見て目を養う
ことを勧めたい。

に身体が動くようになる
ためには、やはり経験が
必要。毎日いろいろなこ
とを考えながら実践すれ
ば、自然と無駄のない動
きが身についてくる。仏
像を横にして作っている
時には完璧と思っても実
際に立たせてみると全然
駄目だった、なんてこと
も、経験がないとつかめ
ません。
彫刻家を育てる環境を
——27歳で独立されまし
たが、不安はなかったの
ですか？
長岡 特に不安はなかつ
たです。当時は、ど
かく自分の仏像が作りた
い。

い。一心でしたが、修業
の身ではそれは出来る立
場ではありません。です
から、独立して自分のイ
メージする仏像が作れる
ことは、本当に喜びでし
た。
ただ、今のようない時代
だったら独立していたか
は疑問です。当時と比べ
業界も厳しくなりました
ので、私自身も常に危機
感を持って仕事をしてい
ます。

よく趣味に仕事が良い
ですね、と言われること
があります。こちらは
一つ一つの作品の結果が
全て。いつ駄目になるか
わからない世界ですから
ね。趣味なんかではでき
ません。
いつも一つ一つの作品
づくりに命をかけるつも
りを取り組んでいる。そ
れだけ全神経を集中させ
るので、次の作品に気持
ちが移らない時もあるく
らい。でも、私自身は、
仏像づくりをする姿勢と
して、それが当たり前前
のことだと思っています。
——同じように石彫刻に
取り組んでいる方も多く
いらっしゃると思います。
長岡 私にとっては、そ
ういった方々が自分の支
えになっている。以前、
石材新聞で全国各地の彫
刻家を紹介していただき
が、ぜひそういった企画
をやって欲しい。
地元の石材を使い精魂
込めて、良いものを作ろ
う、という高い意識を
持った彫刻家が、全国各
地にたくさんいるはず。
お客さんの中には切実な
想いで仏像制作を依頼さ
れる方が少なくない。そ
のような方に対し、「売
れば何でも良い」では
人として良いとは思えま
せん。
今やどこに行っても不
況です。でもそういった
時代だからこそ、お客さ
んも良いもの悪いもの
をしっかりと見極めて購
入されます。ぜひ地元
の素材や技術を大事にし、
全ての仕事に対して精魂込
めて取り組んでいる彫刻家
を大事に育てられる業界
になって欲しいですね。
——最後に今後の夢を教
えてください。
長岡 日本内外の仕事
の基盤を固めながら、一
体でも多くの仏像を作り
続けたい。それで一生を
終えられるのであれば本
望です。
また、個人的にはお寺
などで立体曼荼羅を自分
自身の手で作りたい。
時には経典の中から
イメージして仏の世界
を作ってみたり、誰も
作ったことのないよう
な彫刻を創作してみたい
ですね。
——ありがとうございました。
(聞き手 山口康二)

■長岡和慶仏所

愛知県岡崎市東牧内町字堤外60-1
TEL&FAX0564-32-2335
E-mail:wakei-nagaoka@kdk.biglobe.ne.jp